



June 2012

発行者：公益財団法人かなえ医薬振興財団

協賛：サノフィ・アベンティス株式会社

平成24年度 第41回 かなえ医薬振興財団 助成金公募を開始しました！

「かなえ医薬振興財団」は今年 41 回目を迎える研究助成金及び海外留学助成金の公募を開始しました。1970年に設立された当財団は、生命科学分野の斬新な研究の推進を図り、医学・薬学の進歩、発展ならびに国民の医療および保健に貢献することを目的としています。これまで41年にわたり、総勢1,390名の若手研究者を支援しています。

募集期間：平成24年6月1日～7月31日（必着締切）

助成種類：1. 研究助成金 総額4,300万円（100又は200万円/件）

2. 海外留学助成金 総額1,800万円（120万円/件）

3. アジア・オセアニア交流研究助成金 総額1,000万円（200万円/件）

1. 研究助成金 2. 海外留学助成金：

応募資格：40歳以下（海外留学助成金は35歳以下）の生命科学分野の研究者

対象領域：研究助成金/海外留学助成金とも、臨床医学1～4、及び基礎医学1～2の全6領域。

■臨床医学1：神経/脳

■臨床医学2：循環器

■臨床医学3：消化器/代謝・内分泌

■臨床医学4：呼吸器/免疫・アレルギー/血液/その他

■基礎医学1：癌/免疫/ゲノム/感染 ■基礎医学2：神経/薬理/薬物動態/その他

3. アジア・オセアニア交流研究助成金：

応募資格：45歳以下の生命科学分野の日本人研究者

対象領域：老年医学/再生医学/感染症/疫学/医療機器/漢方/その他

詳しい情報は財団ホームページをご覧ください。 → URL：<http://www.kanae-zaidan.com/>

◆財団 理事からのメッセージ



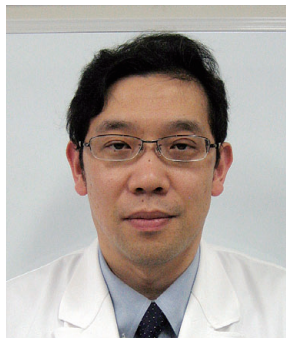
研究者の人格

かなえ医薬振興財団 理事 守殿 貞夫（神戸大学名誉教授）

最近、二人の高名な研究者の講演を聴く機会を得た。お一人は、iPSの開発で有名な京都大学iPS細胞研究所（CiRA）所長山中伸弥先生、その3日後に緑色蛍光タンパク質（GFP）の発見と開発によりノーベル化学賞を受賞されているボストン大学名誉教授下村脩先生である。

研究は、言うまでもないが、実験、調査を通じて深く追求し、考え、物事の真理や事実などを明らかにする一連の過程のことである。お二人の話はテーマこそ違え、研究課程・環境に共通点が多かった。仮説の構築とその検証の繰り返し、その間の突然のひらめき、また偶然が結果をもたらしたとの話もされていた。しかし、後者の偶然は研究課程の適切な評価、計画への的確なフィードバックが出来る訓練された有能な人だからこそ幸運が訪れたとおもわれる。また、お二人とも孔子の言う「仁」、すなわち他を慈しみ、思いやる、優しい心、仁徳を持ち合わせておられる人格者であることも伝わってきた。仁がなければ優れた研究者にはなれないであろうし、研究者にはそれが必要と思った。若い研究者の皆様におかれては、研究に集中されるなかにも「仁」の心を忘れないでいてもらいたい。

◆歴代受賞者からのメッセージ



第34回（平成17年度）研究助成金受賞者

前田 慎（横浜市立大学医学部消化器内科学 教授）

私が研究助成金を拝受いたしましたのは、今から7年ほど前に米国留学より帰国して間もなくのことでした。米国では“炎症発癌の分子機構の解析”というテーマのもと、NF- κ B や JNK といった炎症と発癌との間を結ぶと想定されるシグナル伝達分子の研究を行ってきましたが、その解析はまだ不十分であり、研究のさらなる展開を模索していました。もともと消化器内科医でありましたが、基礎の研究室に留学し、どっぷりと研究三昧の生活を経験した後に、日本での研究を立ち上げている時期でもありました。当時は朝日生命成人病研究所附属病院という施設に所属し、臨床と研究を両立しながら、マウスモデルの解析を中心とした炎症および発癌研究に没頭することが出来ました。胃、大腸、膵臓、肝臓と消化器領域全般にわたる臓器を対象に研究を行ってきましたが、これらの臓器から発生する腫瘍は我が国の癌死亡において極めて重要な位置を占めており、日進月歩の医学の発展の中にあっても、まだまだ研究が必要な分野であることは言うまでもありません。2008年に東京大学消化器内科へ異動したのち、幸運なことに現職に就くことができました。振り返ってみますと、10年以上にわたり、少しずつ視野を広げながらありますが、同じテーマの研究を継続してきたこととなります。癌研究は臨床を携わっている研究者が中心となって行うべきであるというポリシーのもと、これからも多くの若い臨床家、研究者とともに難治癌の撲滅を目指して、精進していきたいと思っております。



第35回（平成18年度）研究助成金受賞者

下畑 享良（新潟大学脳研究所 神経内科 准教授）

私は第35回（平成18年度）の研究助成を賜りました。受賞当時、私は米国留学から戻ってきたところでした。もともと大学院在籍中は、脊髄小脳変性症の発症機序に関する研究を行っておりましたが、日常臨床で担当することが多いものの、根本的な神経保護療法が開発されていない脳梗塞の治療研究に取り組みたい気持ちが徐々に強くなっておりました。西澤正豊教授、中田力教授のご支援を賜り、平成16年にスタンフォード大学脳外科へ留学し、脳虚血に対する神経保護療法についての研究を2年間行い、帰国いたしました。当時の不安は、私の所属する神経内科学教室では脳梗塞に対する基礎研究の経験がなく、研究室の整備をはじめとして、研究をゼロからスタートしなければならないことでした。そのまさに研究を開始するタイミングに、脳梗塞に関する実績が十分とは言えない私どもの研究を助成いただいたことは本当にありがたく思いました。その後、徐々に研究環境を整え、変性疾患におけるキー分子 TDP43 の脳梗塞における役割に関する研究や、脳梗塞に対する血栓溶解療法後の脳出血合併症を防止する血管保護療法に取り組み、少しずつではありますが、臨床への応用を目指した研究を進めることができました。帰国後の研究開始時に多大なご援助をいただきましたことに厚く御礼を申し上げますと共に、今後も若き研究者を応援する存在として、かなえ医薬振興財団がますます発展されますことを心より祈念いたします。

◆海外留学レポート

第30回（平成13年度）海外留学助成金受賞者

寺田 智祐（滋賀医科大学医学部附属病院薬剤部 教授・薬剤部長）

留学先：Gastrointestinal Unit, Massachusetts General Hospital

研究課題：Molecular and Cell Biological Analysis of Intestinal Mucosa

（小腸粘膜機能の分子・細胞生物学的研究）

アメリカ東部の都市ボストンには、「T」と呼ばれる色によって路線が区別されている地下鉄が走っています。私の留学先、Massachusetts General Hospital (MGH) は、Redline の CHARLES/MGH 駅を降り立ったところにそびえたつ、米国で最も古い病院の一つです。もう10年前になりますが、2002年度に、私はこのMGHのGastrointestinal Unitで、腸上皮細胞の自然免疫に関する研究を行ってきました。1年という短い期間でしたが、今振り返っても、研究はもとよりアメリカの生活や文化をも体感できた、非常に濃密な時間を過ごせたと思います。研究面では、留学まではほとんど携わったことのない遺伝子の発現制御に関するテーマに取組み、病原体認識レセプター Toll-like receptor の腸上皮細胞における発現制御機構について一定の成果を上げることができました。帰国後は、そこで得た知識や技術を、本来の専門である薬物トランスポータ研究に応用し、未知の領域を開拓する醍醐味を味わうこともできました。その甲斐あってか、「薬物トランスポータの発現・ゲノム解析とその臨床応用に関する研究」という題目で、平成22年度日本薬物動態学会奨励賞も受賞することができました。また、留学中は、多くのMDの先生方と一緒に過ごせたことも、かけがえのない経験であります。現在薬剤部長として、多くの診療科の先生とお話しさせて頂く時には、その時の経験が非常に役に立っていると感じています。このように、学術的にも人的交流の面でも意義深い留学期間を、経済的な憂いもなく過ごすことができたのは、大変幸運だったと思っています。これもひとえに、貴財団から海外留学助成金をサポートして頂いたためであり、この場を借りて深謝申し上げるとともに、貴財団の益々のご発展を心よりお祈り申し上げます。



第33回（平成16年度）海外留学助成金受賞者

小川 大輔（岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 糖尿病性腎症治療学 准教授）

私は2004年より米国ケンタッキー大学 Dennis Bruemmer 先生のラボに留学し、動脈硬化の進展機序に関する基礎的研究を行いました。ケンタッキーというところはなじみが少ないと思いますので簡単に紹介しますと、アメリカ東部の内陸にある州で、主な産業としては競走馬サラブレッド、バーボン、タバコの産生などです。また毎年5月に行われるケンタッキーダービーは、全米から多くの人が集まる大きな競馬のイベントとして有名です。夏は日本と同様に湿度が高く、クーラーなしでは生活できません。冬は内陸のためとても寒く、最低気温は氷点下10-15℃くらいになるため、毎朝自分の車のフロントガラスに貼りついた氷や雪にお湯をかけて溶かしてからラボに行っていました。また留学中嬉しかったこととしては、榎野博史教授がわざわざ交通の悪いケンタッキーのラボまで激励に来てくださったことです。帰国した後はしばらく岡山市内の総合病院に勤務し、糖尿病のみならず腎臓病や膠原病の患者さんも診ていました。そして、榎野教授の御高配により2008年10月より現在の講座で、糖尿病性腎症の臨床および研究を行っています。末期腎不全にいたる最大の原因である糖尿病性腎症は、病態が非常に複雑であり、その克服のために今後とも努力して参る所存です。末筆になりましたが、貴財団に御礼を申し上げますとともに、益々のご発展を祈念いたします。



◆平成 23 年度 事業報告

〈研究助成事業〉

平成 23 年度 第 40 回の助成事業は、6 月 1 日から 7 月 31 日の公募期間で、研究助成金 460 件、海外留学助成金 153 件、アジア・オセアニア交流研究助成金 40 件の応募がありました。10 月開催の選考委員会で厳正な選考が行われたのち、理事会の承認を受け平成 23 年度の助成金交付者が決定されました。研究助成金は、1 件あたり 100 万円又は 200 万円で 40 名に総計 4,300 万円、海外留学助成金は 1 件あたり 120 万円で 14 名に総計 1,680 万円、アジア・オセアニア交流研究助成金は 1 件あたり 200 万円で 5 名に総計 1,000 万円が贈呈されました。

〈第 40 回助成金贈呈記念式典〉

助成金交付事業が昨年度 40 回目となり、平成 24 年 2 月に助成金贈呈記念式典を開催しました。

詳細は式典特別号のかなえニューズレター No.14 をご覧下さい。(財団ホームページに掲載しています。)

〈業績集の発刊〉

平成 21 年度 第 38 回の研究助成金受賞者の研究報告書を纏めた「受賞者研究業績集 第 38 集」を作成しました。昨年度より財団ホームページ上で公開しています。CD 版送付のご希望はお知らせ下さい。

該当の先生方にはご多忙のところ、貴重な時間を割いてご協力いただき深く感謝申し上げます。

■収支決算報告

正味財産増減計算書

平成 23 年 4 月 1 日～平成 24 年 3 月 31 日

(単位：円)

科目	金額
・経常増減の部	
基本財産受取利息	96,000
特定資産受取利息	27,479
受取寄付金	83,000,000
雑収入	20,080
経常収益計	83,143,559
・経常費用	
事業費・研究助成金	43,000,000
・海外留学助成金	16,800,000
・AO交流研究助成金	10,000,000
・その他	14,007,764
管理費	5,787,669
経常費用計	89,595,433
経常外費用計	0
当期経常増減額	-6,451,874
一般正味財産期首残高	35,547,396
一般正味財産期末残高	29,095,522
指定正味財産期末残高	120,000,000
正味財産期末残高	149,095,522

貸借対照表

平成 24 年 3 月 31 日現在

(単位：円)

科目	金額
・資産の部	
流動資産	4,095,522
固定資産	145,000,000
資産合計	149,095,522
・負債の部	
流動負債	0
固定負債	0
負債合計	0
・正味財産の部	
指定正味財産	120,000,000
(うち基本財産への充当額)	(120,000,000)
一般正味財産	29,095,522
(うち特定財産への充当額)	(25,000,000)
正味財産合計	149,095,522
負債及び正味財産合計	149,095,522

発行

公益財団法人かなえ医薬振興財団 事務局

〒163-1488

東京都新宿区西新宿 3-20-2 サノフィ・アベンティス (株) 内

Tel : 03-6301-3090 FAX : 03-6301-3094

E-mail : kanae.zaidan@sanofi.com

URL : <http://www.kanae-zaidan.com/>

■ご協力をお願いします

このニューズレターは歴代受賞者及び応募関連領域の先生方を中心に約 2500 部発行しております。もし、送付先に変更がありましたら、登録情報を更新させていただきます。お手数ですが email 等でご連絡いただきますようよろしくお願い申し上げます。